



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	女性ウェイト・ピッカーの労働・ケア・実践 山形県東市東市を事例に
Author(s)	譚, 天儀
Description	この博士論文の全文は利用可能日以降に公開されます。利用可能日以前の閲覧方法は https://www.lib.hokudai.ac.jp/dissertations/copy-guides/ をご参照ください。
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(人間科学)
Dissertation Number	甲第16980号
Issue Date	2026-03-25
DOI	https://doi.org/10.14943/doctoral.k16980
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/99824
Type	doctoral thesis
File Information	Tianyi_Tan_review.pdf, 審査の要旨 https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/



学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（人間科学）

氏名： 譚 天儀

主査 教授 宮 内 泰 介
審査委員 副査 准教授 林 琢 也
副査 教授 小 田 博 志

学位論文題名

女性ウェイスト・ピッカーの労働・ケア・実践 ―山東省東営市東営区を事例に

当該研究領域における本論文の研究成果

中国経済の急速な発展に伴いゴミ問題が特に都市部で大きな問題となる中、インフォーマルなウェイスト・ピッカーたちが果たしている役割は大きい一方で、彼・彼女らは社会的に包摂されないまま様々な困難をかかえている。本論文は、中国の地方都市、山東省東営市東営区におけるウェイスト・ピッカーに焦点を当て、彼女たちの生活実態および生活史を描き出すところから、この問題に迫った研究である。インフォーマルなウェイスト・ピッカーたちについての研究は、世界中で多くあるが、中国についてはまだ多くなく、しかもその多くは、彼・彼女らをどうゴミ回収システムの中に組み込むかという議論が中心である。そうした中、本論文は、当該地域の、とくに女性ウェイスト・ピッカーたちについて、コロナ禍期をはさむ長期にわたる参与観察と聞き取り調査を通じて、彼女たちの生活世界を明らかにし、そこから、彼女たちの労働の意味、それを取りまく社会構造を論じた実に貴重な研究になっている。論文では、詳細なフィールド調査から浮かび上がってきたいくつかの問題、たとえば「誰がどういう来歴でウェイスト・ピッカーになるのか」、「女性ウェイスト・ピッカーたちはどういう生活史を有しているのか」、「女性ウェイスト・ピッカーたちのケア労働とウェイスト・ピッカーとしての仕事はどういう関係にあるのか」、「公的な資源ゴミ回収システムが進むことは彼女たちを包摂することになるのか」といったことについて、十分な現場のデータから説得力のある議論をしている。女性ウェイスト・ピッカーたちをひとしなみに見るのではなく、そこに彼女たちそれぞれの生存戦略と主体性を見、そこから社会構造を丹念に議論することから、多くの洞察を得た論文になっている。

ウェイスト・ピッカー研究としても、また広くインフォーマルセクターの研究としても重要な論文となっていると同時に、生活史研究、あるいはジェンダー研究としてもたいへんユニークな論文となっている。

学位授与に関する委員会の所見

審査委員会は、本論文について、コロナ禍をはさむ長期間にわたる詳細なフィールドワークによって、接近しにくい調査対象に多く迫り、かつそれを確実な形で分析・記述したすぐれた論文でもありすぐれたエスノグラフィーでもあると評価した。女性ウェイスト・ピッカーが有する社会的な困難を描き出すだけでなく、その中の多様性について描けていることも評価できる。文献資料や先行研究を十分に踏まえてあることも評価できる。さらに、女性ウェイスト・ピッカーの生活世界から、その労働、ケア、排除についてなされた議論の妥当性も確認できた。

一方、本論文のいくつかの課題も指摘することができる。たとえば、どういう条件の人がウェイスト・ピッカーになるのかということについて論じられているものの、同じ条件でもウェイスト

ト・ピッカーになる人とならない人は何が違ったのかということについて十分に論じられていない点、あるいは、8章で出されている政策提言が、もっと先行研究を渉猟しながら精緻化されるべきである点などである。

しかし、口頭試問において申請者はこうした点について十分自覚的であることがわかった。したがって、これらの問題点は、建設的な課題として、申請者の今後の研究や実践の中で生かされるだろうと期待できる。

以上を総合的に評価し、本審査委員会は全員一致して譚天儀氏に博士（人間科学）の学位を授与することが妥当であるとの結論に達した。